

かわにし防災士会 ニュース

かわにし防災士会

発行者：江見 輝男

編集者：中村 位三郎

事務局：川西市 総務部 危機管理室

〒666-8501 川西市中央町12番1号

電話 072-740-1145

ご挨拶

かわにし防災士会 会長 江見 輝男

防災とは、「災害を未然に防ぐ目的をもって行われる取り組み」です。



では災害とは、「気象などの自然現象の変化や、人為的な原因などによって、人命や社会生活に対する被害を生じる現象」だそうです。

「防災」の2文字を持つ私たち防災士は、何やら大層なお役目がありそうで気が重くなってしまいます。

しかし、あまりむつかしく考える事はないと思って、かわにし防災士会の運営に携わってきました。

防災について少しでも学んだ者同士が月に一回集まって「わいわいがやがや」と楽しく語り合うことが最も重要だと思っています。

その時、間違いなく「防災」を意識し、「防災」について考えているのですから。その「場」が、かわにし防災士会の定例会です。

また、「HUG」の講習を市内各所で開催したり、防災訓練にも参加しました。こうした活動を始めて

ご挨拶

川西市総務部危機管理室 室長 数元 雅信

かわにし防災士会が結成され3年目を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。



皆様方におかれましては、日頃から防災士としてのレベル向上に努められていることに対し敬意を表します。

市では、地域防災計画の見直しを行う等、防災対策の充実強化を図り、災害に強いまちづくりを目指しております。

防災士として習得された知識・技術を地域の防災活動に役立ていただき、ともに防災・減災の取り組みを推進して参りたいと思っておりますので、より一層のご協力をお願いいたします。

早や2年になります。

このたび、広報紙を創刊するに際して、会員の充実した表情が紙面にあふれ、多くの方に愛される広報紙になってほしいと願っています。

第3回かわにし防災士会総会報告

4月24日(木)、川西市役所会議室に於きまして、第3回かわにし防災士会総会が開催されました。形式ばらない和やかな雰囲気の中、川西市役所危機管理室室長以下4名の事務局職員同席のもと、第3回総会は無事終了致しました。



毎月1回の定例会では、実技を含む防災研修を重ねました。

重点的に取り組んだHUG出前講座は10回に及び、会員相互のチームワークや市内での当会の存在をPRできる好機となりました。

一方、「川西防災コンクール」応募者への当会員の指導により、川西市長賞、阪神北県民局長賞、佳作入賞という結果を得ました。

このように、個々の会員による地域活動への参加報告も見られました。当会としての地域参加として

、平成25年度に川西市社会福祉協議会ボランティアグループ登録をいたしました。

その結果、1年間に市内で10回以上の活動実績により、今年度、ボランティアグループ活動助成金を申請することができました。

今年度は、HUG出前講座の継続以外に、企画部では研修などの企画推進を図り、広報

部では年4回の広報紙の発行やホームページの開設も予定されています。さらに各会員がいずれかの部に所属し、大いに活躍の場を広げるよう声かけがされました。

又、毎年実施されている「ひょうご防災リーダー講座」終了後、防災士となった方々の入会も見込まれ、大海への船出となる期待がかかります。

プロジェクト、部会の活動報告

HUGプロジェクト リーダー 駒井 澄子

19年前の阪神淡路大震災。未曾有の大災害に避難所は大混乱でした。それを教訓とし、次への備えとして、静岡県危機管理室が「避難所運営ゲーム・HUG」を作成しました。発災後、地域の小・中学校等が避難所として開設されます。着の身着のままの老若男女が多数集ります。被災者は、各々、色々な問題を抱え、見知った人のいない場合不安は増大します。避難所では、素早く運営本部を立ち上げ、生活ルールを作るなど、少しでも不安やストレスが解消される必要があります。



組から参加できます。120枚余りのカードに書かれた内容を検討しながら、避難所での様子をシュミレーションすることができます。

会発足以来、10回のHUG出前講座を実施し271人の参加を得ました。毎回のアンケートでは、『とっても為になった』『もう一度やってみたい』というご意見を多数いただいております。

いつ来るかわからない巨大地震、恐れてばかりいないで、具体的にアクションを始めることが大切です。“何からどう始めてよいかかわからない”という時、まずはHUGを試みることも有効です。地域の人達への動機付けはもちろん、地域の特徴や問題点が見えてきます。日頃の地域のつながりの大切さを再認識する事も出来ます。

当会では、今年度も引き続き、HUG出前講座を積極的に取り組みます。今まで以上に工夫を重ねた内容を実施する予定です。



HUGの出前講座は、HUGについての説明や、ゲーム終了後の発表・反省を含めて約2時間で終了します。5人1

企画部 部長 輔信 捷三

1. 会員のスキルアップとして、毎月の定例会で取組むメニューを募り、実技を含めて反復して体得する。

2. 本会の目標である地域防災力の向上に資する取り組みとして、会員の意向を聞き、事例



地区を設けて先例として防災・減災計画などを検討する。

3. 行政等の関連行事に参加して地域防災向上に貢献する。

広報部 部長 叶野 慎一郎

防災士会として立ち上がって間がなく、また会員数も少ないため「広報」として、どのような位置づけで考えたらいいのか方向がまとまっていず当面は、機関紙として会員に対する情報の提供のような形になるかも知れません。

しかし、いずれ不特定多数の方に提供で



きるようになれば良いと考えますが配布方法、配布先だけでなく、費用の負担も気になります。立ち上げた以上は、読んで役立つ内容、魅力ある編集にしていければと考えますがこれから先、会員皆様の「ご意見ご協力ご支援」をいただき、実のある広報紙を作り上げていければと考えています。

ホームページ担当 三原 哲司



かわにし防災士会が発足して2年が経過しました。その広報用として、広く市民の皆さんに活動を知って頂くために、ホームページも活用すべく、現在鋭意作成中です。

内容はかわにし防災士会の成り立ちや活動状況、防災士を目指す人への情報提供などを分かりやすくお知らせします。

なかでも避難所運営ゲーム＝HUG(ハグ)を中心とした自主防災会等への出前講座など、市民の皆さんに対して防災意識を高めていただくためのお手伝いをしています。

広報紙担当 中村 位三郎

かわにし防災士会発足3年目を迎え、この度広報紙を発行することになりました。

かわにし防災士会を知っていただくために、どのような活動をしているか。また、活動した内容もご報告をさせていただきます。



その上で市民の皆さんに活用していただける防災・減災につながる「ワンポイント・アドバイス」をシリーズ化し、お役に立てるよう取り組みます。

速報はホームページで、じっくり読んでいただくには広報紙で、役割分担をしながら進めてまいります。

平成25年度活動実績

HUG出前講座の実施:8回実施延べ241名参加
第2回かわにし音灯りへのブース展示(11/9)
川西市防災訓練への参加(H26.1/16)
自主防災会との連携、支援、防災訓練への参加
防災士会員への研修:11回実施延べ161名参加
防災士会役員会(毎月第2木曜日)
定例会(毎月第4木曜日)

平成26年度活動計画

HUG出前講座(初級)の実施と中級の検討
第3回かわにし音灯りへのブース展示
川西市防災訓練への参加
自主防災会との連携、支援、防災訓練への参加
広報紙の発行、ホームページの開設
防災士会員への研修
防災士会役員会(毎月第2木曜日)
定例会(毎月第4木曜日)

平成26年度役員、会計監査紹介

会 長:江見 輝男(留任)
副 会 長:鈴鹿 成正(留任)、駒井 澄子(留任)
書 記:駒井 澄子(留任)
会 計:中村 位三郎(新任)
会計監査:輔信 捷三(留任)、叶野 慎一郎(留任)



左から江見、鈴鹿、駒井(敬称略)

かわにし防災士の紹介

兵庫県は、平成7年の阪神淡路大震災を経験しています。その経験をもとに、平成17年度から「ひょうご防災リーダー講座」が開講し、三木市にある防災センター等での15回余りの多分野にわたる学習を修了した後に、試験を受け防災士に認定されます。

県下全域から地域役員、行政関係者、消防、学生、一般等の老若男女が多数参加しています。

そして平成24年、「かわにし防災士会」の発足を見ました。“せっかく学んだ知識を地域で活かしたい”の思いから、川西市総務部危機管理室に事務局を置き、月1回の定例会で互いに学びあい、情報交換の場とすることになりました。

平成26年3月現在、23名(男性17名・女性6名)の会員が参加しています。川西市社会福祉協議会ボランティア連絡会にグループ登録もしています。地域の自主防災会と連携し、地域での避難訓練や、防災・減災の研修会にも準備段階からお手伝いしております。

今、特に力を入れているのが「避難所運営ゲーム(HUG)」の普及です。静岡県危機管理室が作成したHUGカードを使い、ゲーム形式で楽しく避難所運営を体験することができます。中学生から高齢者まで対応可能です。5名で1グループとし、40名程



度の規模まで実施可能です。参加者と場所を提供していただければ出前講座をいたします。今までに10回実施し、271名の参加を得ています。

実施後のアンケートからは「とっても楽しかった」「もう一度やってみたい」「避難所運営に関して色々事前にできることがある。」「日頃から近所の人と顔なじみになっとかないと。」「いざというときは向こう三軒両隣の助け合いが必要やね。」等々いろんな感想をいただいています。

明日にでも起こるかもしれない巨大地震、一刻も早く何らかの準備をと思う一方、今のうちにしっかりご近所力を作る事が大切ではないでしょうか。

地域力が薄れている今、HUG出前講座でそのきっかけづくりもしていただけます。まずは事務局へお気軽にご相談下さい。防災士がお手伝いいたします。

最後に、今年度も市の広報で「ひょうご防災リーダー講座」の参加募集が行われます。あなたも防災士として、ぜひ一緒に活動しませんか。

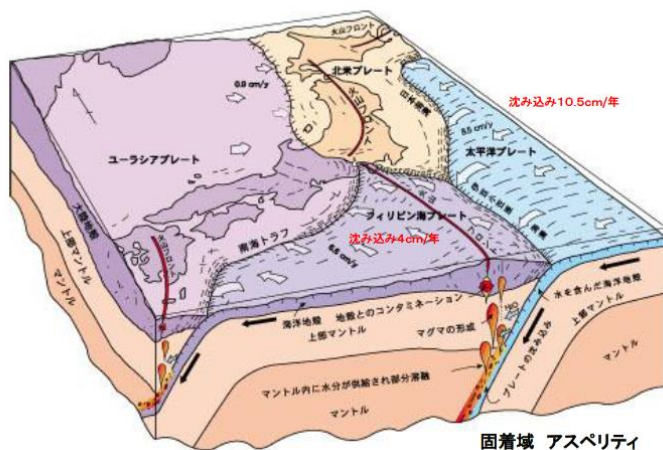
南海トラフ地震までの対策

地球が誕生して43億年、高温熱球も徐々に冷却され表面に瘡蓋状に岩礁が出来て地表部が形成された。それらは10数枚に分かれ、陸地や海底の地形を形成してプレートと呼ばれています。地球内部は、まだ高温流体物のマグマが対流し、上層部のプレートを対流方向へ押し流し続けています。

日本は、ユーラシア大陸と北米大陸の先端に位置し、東からは1年に10cm移動し、潜り込む太平洋プレートに押し付けられ続け、南からは1年に4cm移動し潜り込むフィリピン海プレートに押し付けられ続けている4枚のプレートのせめぎ合いの上に位置しています。そこで生じる地震を海溝地震と分類し、2011年の東日本大震災は、平安貞観地震以来の1,000年間蓄積された東側からの大きな歪みを一気に開放し、牡鹿半島を530cmも東に跳ね返し移動させました。

一方南からの歪みは、約100年間隔で発生していた東海地震が安政地震以来158年過ぎても起こらず、発生時は東海、東南海、南海の3連動の大規模地震となることも想定内とされています。

日本海溝南海トラフの仕組み



この日本列島の状態は、東西の圧縮力が解放され引張側になる所も生じ、南北の圧縮力は長期間の歪みを蓄えたままの1,000年来の異常な状態となって、列島にある2,000余の断層を非常に不安定にしています。無感地震まで加えると地震は毎日500回程度と東北太平洋沖地震以前の2~3倍の発生になっています。

近年の観測データのみでは発生場所の予測が付かず、直下型となる断層地震がいつ、どこで発生してもおかしくないのが現状です。30年以内に66%の確立で起こるとされる南海トラフ地震が発生して、南北の歪が開放されて安定期を迎えます。

この列島で生活するには、普段から防災・減災対策に取組み、何が起ころうとも生き抜く環境を作り上げるのが大切です。強固な住宅地盤、家屋、安全な室内を確保して安心を得ておくことが求められます。まずは身の周りからチェックしてみましょう。

(記 輔信 捷三)

募 集： 広報紙の名称

この度発行いたしました「かわにし防災士会ニュース」は仮称であり、皆様に親しみのある広報紙となりますよう、下記の要領にて名称を募集いたします。

募集期間：平成26年6月2日(月)から6月30日(月)まで

応募：かわにし防災士会事務局(川西市 総務部 危機管理室)

審査：かわにし防災士会役員会で決定します。

記念品：採用された名称には記念品を差し上げます。

発表：次号の広報紙で発表いたします。

かわにし防災士会 広報紙の名称応募用紙

応募先：かわにし防災士会事務局(川西市 総務部 危機管理室)

締め切り：6月30日(月)

名 称	
氏 名	(フリガナ)
住 所	〒 (電話： —)